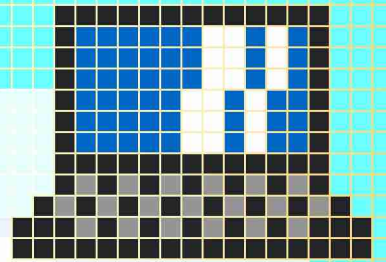


ネットリテラシーの基本



ネットは世界中の人が見ている

TwitterのようなSNSでは、基本的にその発言が全世界に公開されています。一方、友達登録が前提となるLINEをはじめとするSNSは、一般的に仲間同士の内輪話のように思われていますが、思わぬところからその発言や写真が外に出してしまう事態も起こっています。

ネットの情報を鵜呑みにしない

SNSなどに書き込まれた情報は、その真偽を誰も保証してくれません。例えば、今ネットでやり取りをしている相手が男なのか女なのか、歳はいくつなのか等、私たちはそれを確かめる術を持っていません。ネット上で知り合った相手と会わない方がよいというのは、こうした理由があるからです。

面と向かって言えないことはネットでも言わない

ネットでの発言は相手の顔が見えないので、ひどい言葉を平気で言ってしまうという特徴があります。これは相手の状況も同じなので、ひどい言葉を言うと、もっとひどい言葉が返ってきてその罵り合いが泥沼のような応酬に結びつきがちです。

ネットに一度出たものを全て回収することは不可能

ネットに掲載された発言や写真はそれを閲覧した人が自由にコピーできます。そのため、なにか問題があったときに元のファイルを消したところで、ネット上には無数のコピーが存在していると考えべきであり、これらをすべて消すなどということは実質的に不可能です。

ネットで行ったことは通信事業者に記録が残っている

自分ではこっそり行動しているつもりでも、電話会社には契約したユーザーがネット上で行った行動が通信記録という形で残されています。犯罪予告などをした人が警察に逮捕されてしまうのはそのためです。つまり「ネットは決して匿名ではない」ということです。

※ネットリテラシーとは、一般的に「ネットワークを正しく利用する能力」との意味合いで使われておりますが、ここでは少し意味を限定して「ネット・トラブルに巻き込まれないための自衛能力」として使用しております。

